

<令和2年6月24日受付>

御意見	対応
○京都市桃陽病院の在り方について	
<p>1 京都市桃陽病院の在り方に意見を申します。第二感染症病院にも関わらず、コロナ関連の児の受け入れを要請されたにも関わらず断り、その後も熟発者を断っているそうです。</p> <p>施設もボロボロで天井に穴が開き、雨漏りや冷房施設も時々止まっていると知人から聞きました。マスクやアルコールの寄付は受けとって置きながら、そのような施設に血税を投入するのはおかしいと思います。人件費だけで2億6千万もかけているのは市民感情ではありえないと思います。</p> <p>早々に廃止し、広大な土地を売却して、困っている方の援助に回すか、PCR検査の場所、コロナ陽性で親と隔離された子どもの預かり所にするなど、有効に活用したほうが良いと思います。この国難の時に公的な施設が市民のために協力しないなどありえないし、そんな施設は必要はないです。</p>	<p>京都市桃陽病院は、ぜん息やアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、高度肥満症や糖尿病、腎不全などの小児慢性疾患、心身症など様々な理由で学校に通えない小・中学校の子どもたちが、安心して病気を治しながら隣接する学校で学べる、公立の療育施設です。</p> <p>京都市桃陽病院は入院療養と教育を共にできる市内で唯一の施設としての役割を果たしておりますが、その運営には人件費や施設整備などの経費がかかります。引き続き、よりよい施設運営について検討してまいります。</p> <p>なお、今回の新型コロナウイルス感染症における対応につきましては、マスクの着用やアルコール消毒の実施など、必要な感染防止対策を行っておりますが、施設の設備上、入院している子どもたちの安全を確保したうえで、発熱等感染の疑いのある方を診療することや、コロナ関連の児童を隔離して受け入れることが困難であると判断し、受診のお断りをしてまいりました。</p>

<令和2年7月7日受付>

御意見	対応
○資産有効活用について	
<p>1 財政が厳しい中、資産有効活用条例が有効に活かされていないのではないかと。市にはまだまだ、活用されていない資産があります。竹林公園や京都市桃陽病院などです。ほとんど機能していない所に税金をつぎ込むのはいいかと思うか。</p> <p>ホテルや宅地に転売した方が良いのではないですか。例えば桃陽病院の土地だけでも数十億になりますし、竹林公園など洛西ニュータウンの中なので宅地転売できると思います。高級ホテルに働きかけるのも良いと思います。</p>	<p>事務事業評価制度では、個別の事務事業の必要性や効果、効率性等を評価することによって、改善、見直し等を行うための判断に資する情報を提供することなどを目的としており、本評価制度に係る市民意見申出制度では、事務事業評価の評価方法や評価結果等に関する御意見、御提案を受け付けております。</p> <p>今回いただきました資産有効活用に関する御意見につきましては、各所管課等へ情報提供させていただきます。</p>

<令和2年10月4日受付>

御意見	対応
○刑務所移転について	
<p>1 山科の地域活性化のために刑務所移転の話がありますが、具体的に進んでいません。広大な土地の確保、資産価値の減少、治安への不安から地域住民の反対など要因があります。</p> <p>提案の一つとして、京都市桃陽病院、支援学校の敷地を提供することは可能ではないか。周囲が何もなくて、住宅地もほとんどないところなので、住民への交渉も少なくて済む、そして、それを国に売却すれば一石二鳥だと思います。全ての収容は無理でも、半分くらいは収容できるスペースがあるのではないかと。山頂付近ということもあり、隔離、管理しやすい面もあると思う。</p> <p>こどもの病院としては民間が代替として機能しており、発達障害に関しては児相が責任を担うことを考慮すれば、人件費等の費用対効果を鑑みれば一考の余地があると思います。市財政の逼迫を考えれば、予算を集中する所とそうでない所を明確に選択しなければならぬと思います。</p>	<p>事務事業評価制度では、個別の事務事業の必要性や効果、効率性等を評価することによって、改善、見直し等を行うための判断に資する情報を提供することなどを目的としており、本評価制度に係る市民意見申出制度では、事務事業評価の評価方法や評価結果等に関する御意見、御提案を受け付けております。</p> <p>今回いただきました刑務所移転に関する御意見につきましては、各所管課等へ情報提供させていただきます。</p>

<令和2年10月8日受付>

○京都市桃陽病院の在り方について	
<p>1 令和元年度の京都市桃陽病院の事務事業評価に対して意見を述べさせていただきます。</p> <p>令和元年度だけでスタッフの人件費だけで2億6千万ほどかかり、事業費、運営費と合わせて3億7千万かかっています。京都市年間負担額として毎年1億5千万近く費やしています。はたして、それに値するだけの成果があがっているのでしょうか。コロナ下で税収が大きく下がると、来年度も確実に人件費だけは増加します。建物もデータ上、40年以上経過しており、老朽化も進んでいるでしょう。建て替える体力は今の京都市にはないでしょう。</p> <p>民間にできるところは民間に、政策的に必要なところは児相を中心に行っていくことが妥当ではないでしょうか。そのために市立病院は独立し、リハビリセンターの病院は廃止されたことだと思います。なぜ、桃陽病院だけが、病院事業として存続できているのか不思議でなりません。</p> <p>世の中の経済状況は厳しく、公務員だけが安泰だという感覚を親方日の丸と言います。本当に必要ところに財源を回し、不公平感のないような政策が行えるように、事業の精査をお願いしたいと思います。</p>	<p>京都市桃陽病院は、ぜん息やアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、高度肥満症や糖尿病、腎不全などの小児慢性疾患、心身症など様々な理由で学校に通えない小・中学校の子どもたちが、安心して病気を治しながら隣接する学校で学べる、公立の療育型の病院であり、入院療養と教育を共にできる市内唯一の施設としての役割を果たしています。</p> <p>一方で、その運営には人件費や施設整備などの経費がかかります。本市が厳しい財政状況であるなか、引き続きよりよい施設運営について検討してまいります。</p>